

興味を持ってるのは日常の言語生活です。戦禍も少い日本は美しい自然を沢山持っており又、全国どの地方でもその地元のお祭りが楽しく行なわれ日本の固有文化の伝統が守られているのになぜ言語生活では自分の言葉を守らないか分かりません。漢文化圏だけに漢字や漢字語を使うのは当然だし又、和語や漢字語にも無い外来語や学術語を使うのもごく自然的だけれど、自国語で立派な言葉がありながらよその物を使うのは日本の国語政策を分らない限り理解できないと思います。ちょっと例を上げて見ると、「パパ」「ママ」「ハンスト」「ダメージ」「メリット」……それに外国語自身を略して、「バイト」かの有名な爆破事件の「マイト」事件……このような単語が大衆に一番影響の大きい新聞やテレビで使ってるから、ぼくとしては納得できませんでした。でも新聞、雑誌等がどんな言葉を使おうと自由奔放にペンをふり回す事のできる言論の自由には大歓迎でした。昔からのことわざのごとくペンは権力（剣）より強い事実を証明している見たいです。一筆により日本一の権力者を倒した事はウォーターゲート事件と並んで無冠帝王の勝利と思います。

日本の電鉄は庶民にとって非常に便利な足になっているが庶民のバスは不便だと思います。自家用車の無い者でちょっと離れた郊外の団地等で住んでる住民や三鷹天文台で夜遅くまで残る人達はよく感じると思います。ぼくのように走るのが好きな人は夜バスが運行しなくても西調布まで 13 分 30 秒位で走れるからいいがそうでない

人は料金の高いタクシーを乗らなければなりません。このような事は全部マイカーが多すぎるからだと思います。子供達が夢中で遊んでいるせまい道まで車が突込んで来てはかなわないと思っています。

初めて三鷹天文台に来た時びっくりしました。町の真中であつたからです。人口が増えると食糧住宅の問題だけで無く観測所とか OD 問題にまで大きい影響を与えている事が分かります。東京天文台の談話会に出るたびに多勢の研究者達が活発な議論を展開しているのを見ると何時我国でもあのような光景を見られるかと考えてしまいます。昔我国も千年もずっと前統一新羅時代にすでに胆星台と言う天文観測用楼台が建てられており、今にもその誇高き姿が幸にも数多い外侵の戦禍から逃れ慶州に残っているけれど、天文学が学科としてソウル大学に設けられたのは実に日本より約一世紀も遅いと言う事は何を意味しているでしょう！幸にして最近我国でも国立天文台を持てるように成り先祖に対しちょっとでも面目を立てる事が出来たと思います。ここで天文台建立の為め八方に努力して下さいの方々へ感謝している事を申し上げます。まだ小型だけれど天気が日本より遙か恵まれているので良い観測ができると思います。昔と違ってこれからの両国は国民同士の真の交流が要求されるだけに雑音の多い政治や経済交流より天文学のような純粋学問とか人道的立場に基くいろんな民間交流を通じてお互いのかの良い関係を結ばれるよう希望しています。

(原文のまま)

日本天文学界に寄せて —その印象—

京都大学・工・航空工学教室・桜井研究室 S.A. ソレンセン

科学が、唯一の真の万国共通の世界だと一般によく言われている。これは少し言いすぎかもしれないが、あらゆる点で真実と言える。興味の対象は、国境を越えて、互いに重複し、研究の方法の違いは、国民性に寄るよりも、個人の趣向に基づくものである。だから日本の天文学界を他から引き離して、それについて私の意見を述べるという事は、一見困難のように思える。

私は、2年前、デンマークのオールフス大学（オーレ・レーマー天文台）から日本に来た。オールフス大学は、コペンハーゲン大学について、デンマークで二番目に古く、規模も大きい大学（学生定員 1,5000 名）である。そういう点でオールフス大学は、現在私が所属して研究を進めている京都大学（航空工学教室・桜井研究室）と似ている。それにもかかわらず、いろいろの違いがある。そのひとつは、日常研究生生活の中で出くわす、文化的背

景の違いである。しかし、この違いは非常に抽象的な形で現れ、それに私の妻が日本人であるために、それは私にはあまり気にならない。

もっと具体的な違いは、日本ではおびただしい数の科学者が

が、天体物理の問題に興味を持っていることである。これは、デンマークより 20 倍も人口が多いという事実からだけけるのではなく、専門的な天文学の分野以外で、これらの問題を研究している研究者の数からくるものである。私自身、理学部に属せず、天体物理に直接関係の



